

飲水思源

町長

松岡市郎

原始人と青春の心！

「若者よ 原始人に戻れ」は日本を代表し、世界で活躍する建築家、安藤忠雄氏（72）の講演会での話である。現在の若者に安藤忠雄と言っても知らない人が多いようだ。建築という一般の人々にはなじみの薄い分野でもあるためだろう。

安藤氏について調べて見ると、経歴が多彩である。高校時代に拳闘（ボクシング）のライセンスを取得し、「グレート安藤」のリング名で闘い、戦績は13勝3敗7分けとなっている。しかし「拳闘では飯は食えない。見当違い」とあきらめ、海外へ見聞を広める武者修行へと出かけ、感性を磨いたようである。

高校卒、独学24歳で一級建築士の資格を取得し、28歳で自らの建築事務所を構えている。その後、東京大学教授や著名なハーバード大学などで客員教授を歴任している。声はガラガラ、自ら顔は原始人だと言う。実際に会うと不思議なこと

に原始人に見える。安藤氏曰く、「若者の顔は原始人から遠ざかっている」と言う。容姿を指しているのではない。原始人には

少なくとも3つの力、「発想力、持続力、直観力」があった。発想力で自ら考え、目標に向かって闘う闘争心がある力、そして持続力は「しぶとさ」を指摘し、自分たちで誇れるものを自分たちで創る力であると。最後の直観力であるが、さまざまなものに出会って刺激を受け感性を磨く力だそうである。現在の若者からはこの3つの力がどうも抜け落ちてしまい、たくましさを感じないという。

人間は生涯「青春の心」を持ち続けることが大切であるとも説く。米国の実業家、サミエル・ウルマンの「青春の詩」の一節、「青春とは人生の一期のことではなく心のあり方のことだ。若くあるためには創造力、強い意思、情熱、勇氣…冒険への希求がなくてはならない。人間は年齢を重ねた時老いいるのではない、理想をなくした時老いいるのである」と紹介していた。

若者はかりでなく、われわれも安藤氏のように原始人の力と青春の心を失わないようにしたいものである。

俳句

節料理黒豆三粒残りおり
 どんど火を囲みふる里同じうす
 雪だるまきつと手がでる足がある
 除夜の鐘雪つれだちて舞い初むる
 春待ちてスーツケースを出してみる
 携えし手と手見送る駅は雪
 吹雪の中会えると信じ冬の駅
 雪だるま炭のくちびる一文字
 新年の太鼓花火のめでたさよ
 着ぶくれて日の目みぬ句を愛おしむ
 天上と地上をうながす雪の舞
 子等の夢両眼に託す雪達磨
 書き初めのはみだしそうな雪だるま
 雪だるまポリバケツから戦斗帽
 角巻も亡母の行李も断捨離し
 ダイエットかなわぬ夢か寝正月
 解けないでそのままいてね雪だるま
 じいちゃんの孫だっこする師走かな

高瀬潤	石澤清宏	澤田久美子	松山蓉子	三島智	若田郁	本田咲	山内みゆ	長谷川きみゑ	小林ろば	高橋公花	杉山ひろのり	保科なほ	徳光吐苦	杉山りつ	山口佐知子	横田則子	若田久
-----	------	-------	------	-----	-----	-----	------	--------	------	------	--------	------	------	------	-------	------	-----

